

第4学年1組 国語科学習指導案

令和4年11月11日（金）第5校時

指導者 教諭 恩田 光

- 1 単元名 中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう（16時間扱い）
（教材名 世界にはこる和紙、百科事典での調べ方、伝統工芸のよさを伝えよう）

2 単元の目標

- (1) 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。 〈知識及び技能〉 (2) ア
- (2) 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や辞典の使い方を理解し使うことができる。 〈知識及び技能〉 (2) イ
- (3) 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。 〈知識及び技能〉 (3) オ
- (4) 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉 B (1) イ
- (5) 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉 B (1) ウ
- (6) 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉 C (1) ア
- (7) 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉 C (1) ウ
- (8) 進んで中心となる語や文を見つけて要約したり、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係の書き表し方を工夫したりしようとし、学習の見通しをもって、調べて分かったことなどをまとめて書こうとしている。 〈学びに向かう力、人間性等〉

3 単元の目標達成のための中心となる言語活動

学校図書館などを利用し、調べて分かったことなどをまとめて書く。（関連：言語活動例ア）

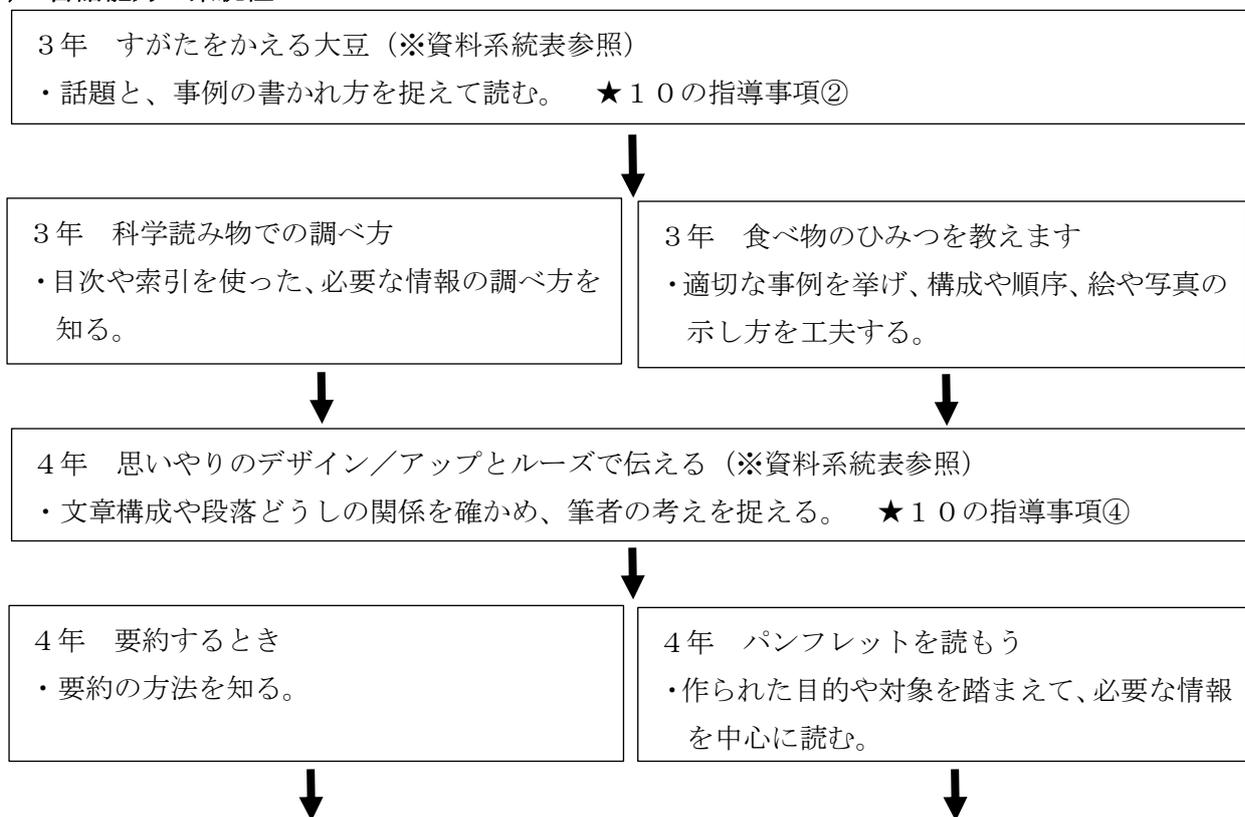
4 単元の評価規準

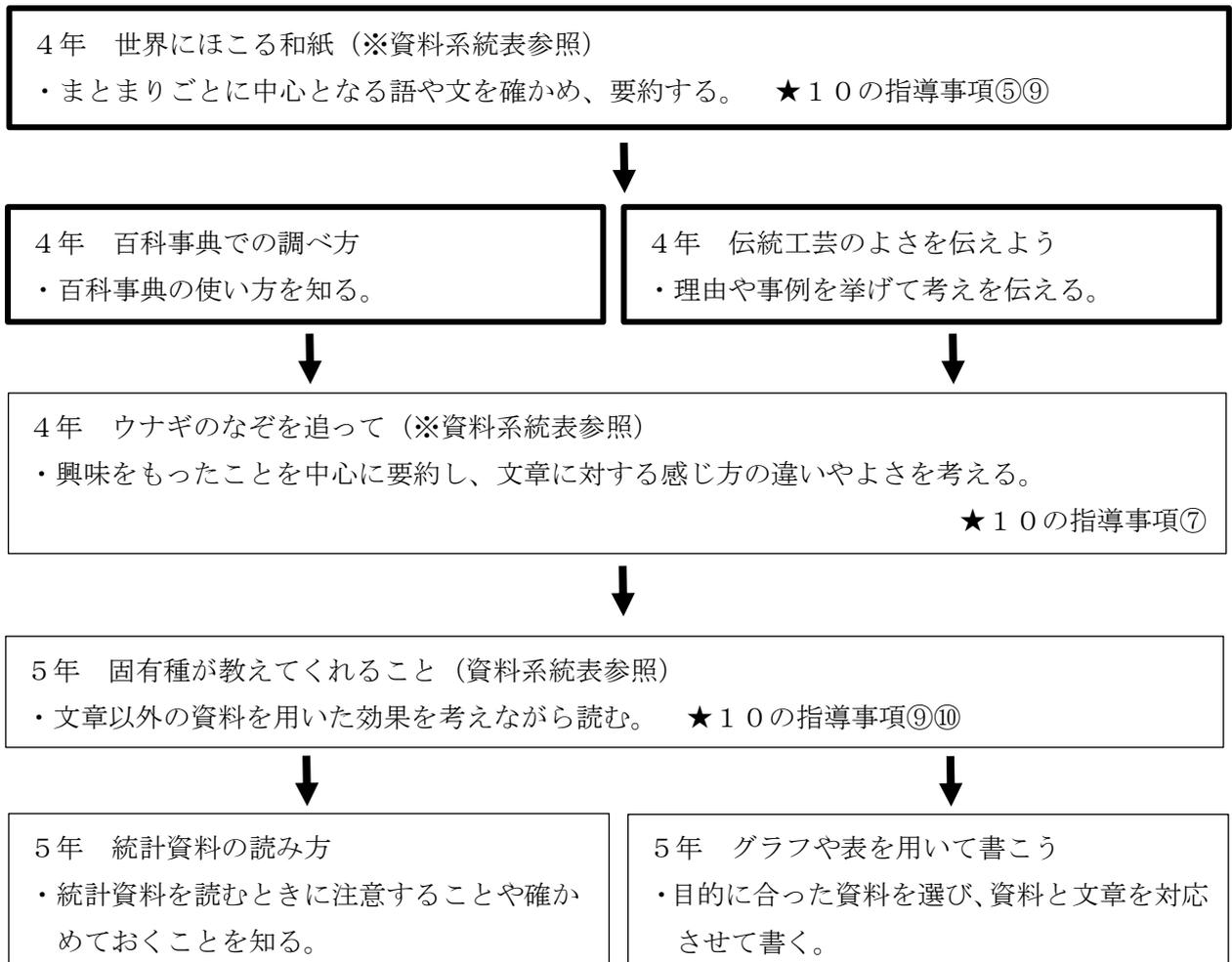
知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	① 「書くこと」において、内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注	① 進んで中心となる語や文を見つけて要約したり、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係の書

<p>② 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や辞典の使い方を理解し使おうとしている。((2)イ)</p> <p>③ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ)</p>	<p>意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ)</p> <p>② 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>③ 「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア)</p> <p>④ 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。(C(1)ウ)</p>	<p>き表し方を工夫したりしようとし、学習の見通しをもって、調べて分かったことなどをまとめて書こうとしている。</p>
--	---	---

5 単元について

(1) 言語能力の系統性





(2) 児童の実態

調査人数20名 調査日 令和4年10月12日

1	国語の学習は好きですか。	好き 3人 どちらかというが好き 14人 どちらかという嫌い 2人 嫌い 1人
2	好きな学習は何ですか。 (複数回答)	音読 9人 漢字の学習 9人 作文を書く 4人 自分の考えを発表する 4人 話し合いをする 9人 季節の俳句 6人 四字熟語・ことわざ1人
3	作文の決まりを考えて文を書いていますか。	書いている 18人 書いていない 2人
4	前に学習した「文章構成」「段落同士の関係」「筆者の考え」に気をつけて読んだり書いたりしていますか。	している 3人 どちらかというとしている 11人 どちらかというとしていない 4人 していない 2人

本学級の児童は、これまでに教材文「すがたをかえる大豆」と「アップとルーズで伝える」の説明的文章の学習をしている。そこでは、話題と事例の書かれ方を捉えながら読んだり、文章構成や段落同士の関係を確認、筆者の考えを捉えながら読んだりする学習をしてきた。文章を読む際

に、文章構成や段落同士の関係、筆者の考えを基にして、内容を正確に読み取る児童が増えてきた。しかし、文章構成や段落同士の関係、筆者の考えに気づくことができなかつたり、気づいていても正確に読み取れなかつたりする児童も多くいる。

国語の学習についてのアンケートでは、国語が好きな児童が多い。しかし、好きな学習の中で、作文を書く学習において好きな児童は4人である。書くことに関しては、個人差が大きく、多くの時間を必要とする児童もいる。単純な文でも言葉を選ぶことや、自分の考えを書くことが難しい児童や、思いついたことを整理できないまま書き進めてしまう児童も多く見られる。これまでに学校行事の感想や作文帳等を使って、文章構成を意識して書かせることを年度当初から続けてきた。そして、その都度、「はじめ」「なか」「おわり」の文章構成を考えながら書かせることを徹底してきた。その結果、200字程度という限られた字数の中で「はじめ」「なか」「おわり」で書くことのできる児童がとて多くなり、アンケート結果でも18人が作文の決まりを考えて書いている。しかし、筆者の考えを見つけることや長い文章を要約して書き、自分の考えを付け加えて書くことについてはまだ経験が少ない。

そこで、本単元を通して、文章構成や段落同士の関係を再確認しながら、伝統工芸のよさを伝えるリーフレットを作り、5年生に伝えるという相手意識・目的意識を明確にし、「中心となる語や文を選んで要約する力」を身に付けさせたい。

(3) 指導観

本教材は、双括型の説明文であるため、「はじめ」と「おわり」に筆者の考えが書かれている。これまでに学習してきた「すがたをかえる大豆」や「アップとルーズで伝える」の教材の読み方にとて近いため、文章構成が捉えやすく、考えと理由の関係を捉えたり、中心となる語や文を見つけたりする学習に適している。そのため、ここで行う要約の学習は、既習済みであるが、さらなる力の定着を図るために指導を行いたい。そして、内容の中心となる語や文を選んで要約することができる力を一人一人がきちんと身に付くように指導をしていく。さらに、「読むこと」の学習を基に「書くこと」への学習へ発展させていくため、単元の目標に「書くこと」の項目を入れた。

指導の過程としては、豊野小スタイルの「確認読み」「要点読み」「構造読み」を通して文章内容や構成を捉える学習を行い、「吟味読み」の段階で、双括型の文章であることを明確にし、筆者の考えを確認しながら要約をしていく。そして、本教材は、和紙における「よさ」や「みりよく」というものは、主観的で漠然としたものであり、自分の感じる「よさ」や「みりよく」を相手に伝えるためには、具体例を示し、そう判断する理由を述べなければならないと筆者が主張を展開している。そこで、和紙の「よさ」や「みりよく」をどの語や文から読み取ることができるかを丁寧に扱うことにより、要約することへの手助けとしていきたい。また、どの単元でも音読をすることを大切に扱い、最初は「ゆっくりはっきりと読む」ようにし、慣れてきたら「だんだん早く読む」ようにさせる。そして、最終的には、「すらすらと読む」ことを目標に音読に力を入れてきた。そのため、本単元でも毎時間、音読をする時間を取り入れていく。

本単元のゴールは、「伝統工芸のよさをリーフレットにまとめ、5年生に読んでもらう」ことである。そのため、「世界にほこる和紙」の教材において筆者の考えやそれを支える理由などを丁寧に押さえ、要約の仕方を一人一人が十分に理解し、200字程度でまとめさせる。中心となる語や

文を本文の中から適切に見つけさせた上で、並行読書で読み進めている伝統工芸の「よさ」や「みりょく」についてまとめていく。組み立て方やレイアウトなどを適宜、ペアやグループでの話し合い活動も入れながら学習を進めていく。書くことが苦手な児童にとって、少しでも書くことへの抵抗感を少なくするために、ヒントカードや国語コーナーを活用することや、児童同士の作品の交流など対話的な学習も取り入れながらリーフレットを作成していく。5年生との交流を通して、言葉の使い方が適切であったかやきちんと伝統工芸の「よさ」や「みりょく」が伝わるか等アドバイスしてもらうことで、論理的思考力の育成を図っていきたい。

6 指導と評価の計画（全16時間扱い）

時	主な学習活動	学習内容	評価の観点			具体的評価規準	
			知	思	態		
1	並 行	○伝統工芸について関心をもつ。 ○単元の学習のめあてを確認し、学習計画を立てる。	○伝統工芸に関するイメージ ○学習の見通し ○要約の効果（モデリングにより効果についてふれる。）			①	【態】伝統工芸について関心を持ち、単元全体の学習の見通しをもって、進んで学習に取り組もうとしている。（観察・発言・記述）
		リーフレットで伝えよう ～世界にほこれる日本の伝統工芸～					
		○「世界にほこる和紙」を読み、初発の感想を書く。 (確認読み)	○初発の感想の書き方の観点		④		【思】中心となる語や文に注意しながら通読し、初発の感想をもっている。 (発言・記述)
2	読	○「世界にほこる和紙」を読み、おおまかな内容を捉える。 ○段落を確かめ、文章全体の構成を捉える。 (構造読み)	○文章の構成「初め」「中」「終わり」		③		【思】段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 (発言・記述)
3 本時	書	○「中」に述べられている、筆者の考えの理由となる2つのことを読み取る。 (要点読み)	○文章の構成・順序を表す言葉「まず」「このように」「もう一つ」 ○中心となる言葉や文（和紙のよさ）	①			【知】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 (観察・記述)

					①	【態】進んで中心となる語や文を見つけて、筆者の考えとそれを支える事例との関係を見つけようとしている。 (観察・記述)
4	並 行	○「中」で、どのような例が何を説明するために述べられているかを読み取る。 (要点読み)	○具体例の説明 (国語コーナーにも掲示) ○要点のまとめ方		③	【思】内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 (発言・記述)
5		○まとまりごとに中心となる語や文を考え、「世界にほこる和紙」を要約する。 (吟味読み)	○文章の要約の仕方		④	【思】目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。 (観察・記述)
6 ・ 7		読 書	○伝統工芸に関する本について、よさが書かれていると思うところを中心に要約する。 ○「百科事典での調べ方」を読み、百科事典の使い方を知る。 (ノイエの司書の方に辞典の使い方を教わる)	○資料を使っの要約の仕方 ○百科事典の使い方	②	④
8 5 10	○伝統工芸のよさを伝えるリーフレットを作る学習の見通しをもつ。				③	① 【態】進んで中心となる語や文を見つけて要約したり、複数の本を読んだりしようとしている。 (観察・記述)
						【知】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている (観察・発言)

	並 行 読 書	○取り上げるものを決めて、本などで調べ、情報を整理する。	○調べることの確認・決定 ○資料を使つての調べ方 ○メモの取り方		②	【思】調べたことを基に、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(記述)
11 5 15		○組み立てを考え、下書きをする。 ○レイアウトを工夫し、リーフレットを作る。	○情報の整理 ○下書きの書き方 ○写真や絵・図の使い方 ○文章の組み立て方 ○清書の仕方 ○推敲の仕方		① ②	【思】調べた内容の中心を明確にし、段落相互の关系到注意しながら文章の構成を考えている。 (観察・記述) 【思】自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にしながらかき表している。(観察・記述)
16		○友達と読み合い、感想を伝え合う。 ○単元の学習を振り返る。	交流の仕方 ○読み合うポイントの確認 ・要約について ・事例の扱い方 ・写真や図		④	【思】中心となる語や文がきちんと使われて要約されているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分や友達の文章のよいところを見つけている (観察・記述)

7 研究主題との関連

論理的思考力を高める国語科指導の追究
～実生活に生かせる読む・書く力の育成～

仮説1 系統表により、各単元において身に付けなくてはならない学力を明確化し、指導計画や指導方法を工夫することで、論理的思考力が養われ、自分の考えを表現することができるのではないか。

手立て1 単元のはじめに、伝統工芸のよさをリーフレットにまとめ、5年生に読んでもらうというめあてを立て、見通しをもって学習に臨めるようにする。

手立て2 説明文を「豊野小スタイル」にそって読み進め、教材の内容や全体の文章構成、筆者の考えを捉えさせる。

手立て3 いつでも既習事項を振り返られるよう国語コーナー「わかりやすい文章の書き方」を常設し、特にわかりやすく読む相手に伝わりやすい文章を各場面（リーフレット作成）において活用できるようにする。

仮説2 多様な対話形式を設定することで、児童が目的意識をもって、自分の考えを比較したり見直したりするようになり、自分の考えを広げ、深める力が育つのではないか。

手立て1 「世界にほこる和紙」や平行読書で読み進めている本において、書き手の意図に対して、常に問いをもちながら読み進めることで教材文との対話を促す。

手立て2 意見を交流する時間をできる限り多くとり、友達のまとめ方と自分のまとめ方の共通点や相違点を探ったり、情報を共有したりすることで、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。

手立て3 文章構成や組み立て方を検討する場面では、加除・修正のしやすいタブレットを使った写真（オクリンク）を活用して、話し合いの活性化を図る。

8 本時の学習指導（3／16時）

（1） 目標

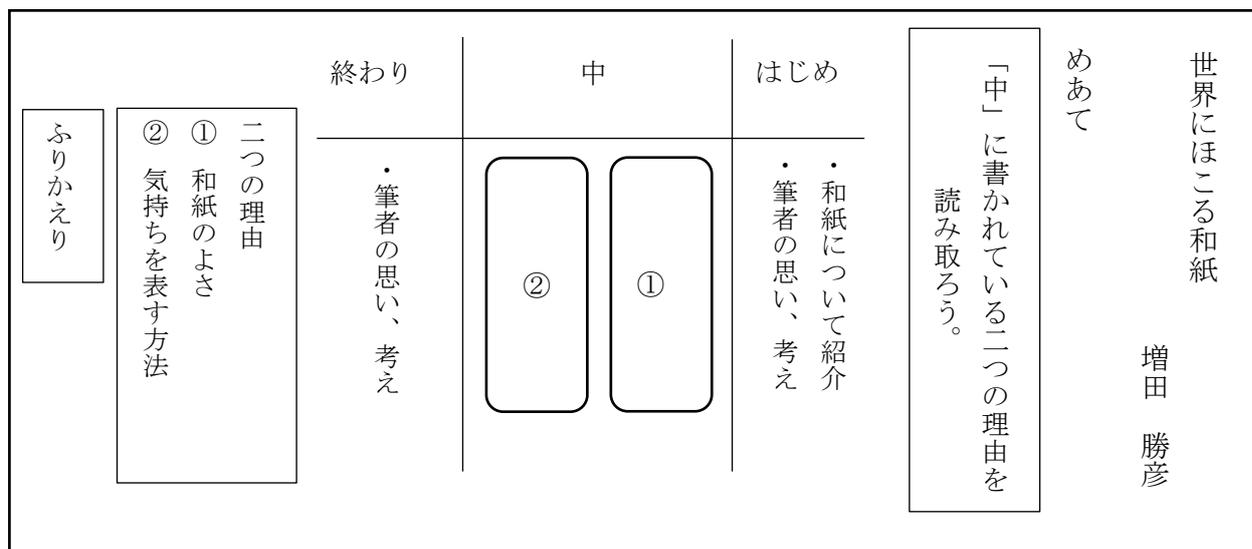
- 筆者の考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解しながら、「中」を2つのまとまりに分けることができる。 〈知識及び技能〉（2）ア
- 進んで中心となる語や文を見つけて、筆者の考えとそれを支える事例との関係を見つけようとしている。 <学びに向かう力、人間性等>

(2) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価 ★研究主題との関わり	時間
1 前時までの内容を振り返り、本時の課題を確認する。	○文章の構成 ・「はじめ」「中」「終わり」	★国語の既習事項を振り返ることにより、見通しをもって取り組ませる。	5
「中」に書かれている2つの理由を読み取ろう。			
2 P45の第3段落からP49の第9段落目までを音読をする。	○音読	○「中」には2つの理由が述べられていることを伝え、読み取ることに意識をしながらすらすらと音読をする。	8
3 「中」を大きく2つに分ける。 ・個人→全体	○文章の構成 ・順序を表す言葉 「まず」「このような」「もう一つ」	○第2段落に書かれている筆者の考えの理由に着目させる。 ○順序を表す言葉に着目させ、段落同士のつながりを考えさせる。	8
<p><期待される児童の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中」の前半には、和紙のよさが書かれている。 ・第7段落には、「もう一つ、……理由があります。」と書かれているから、この段落から違う理由が書かれている。 		<p>評価場面1</p> <p>【知識・技能】</p> <p><評価方法> 観察・記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中」に書かれている内容に着目して、大きく2つに分けている児童をB評価とする。 <p><「努力を要する」状況(C)への手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語コーナーに掲示されている言葉(「まず」「このような」「もう一つ」など)を探るように助言する。 	
4 「中」に述べられている2つの理由を読み取る。 ・個人→グループ→全体	○中心となる言葉や文 ・和紙の特徴 (洋紙との比較や事例)	○第3段落から第6段落では、「和紙の、洋紙にはないよさ」、第7段落から第9段落では、「気持ちを表す方法として使われている」が述べられていることを押さえる。	15
<p><期待される児童の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・和紙の破れにくさや、長持ちする理由について書かれている。 ・和紙を作っているところが、外国に比べて日本は 		○和紙が自分の気持ちを表す方法の一つだということがなかなか理解できない児童には、社会科見学で紙漉き体験をしたことを想起させることに	

<p>多く残っているところが書かれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和紙が、受け取る相手や伝えたい気持ちに合わせて選ばれることが書かれている。 ・「中」は、第2段落に書かれている、筆者の思いや考えの元となる理由がくわしく書かれている。 		<p>より実感させていきたい。</p>	
<p>5 本時の学習内容をまとめ。</p>	<p>○文章の構成図をのせる ○中心となる言葉や文</p>	<p>評価場面2 【態度①】 <評価方法> 観察・記述 ・中心となる語や文を見つけて、筆者の考えの理由を読み取っている児童をB評価とする。 <「努力を要する」状況(C)への手立て> ・和紙のよさについて見つけられるようなヒントカードを基に中心となる言葉や文を探すように助言する。</p>	
<p>6 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○振り返りのポイント</p>	<p>○「和紙のよさ」「気持ちを表す方法」という2つの理由が、「中」には書かれていることを共通理解する。</p> <p>○次時は、本時の学習を基にして、「中」に述べられていることを、さらに詳しく読んでいくことを知らせる。</p>	<p>5</p> <p>4</p>
<p><2つの理由> 1 和紙のよさ (破れにくい、長持ちする) 2 気持ちを表す方法 (和紙の風合い)</p>			

9 板書計画



10 資料（文章構成図）

終わり	中2			中1				はじめ		段落
⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	
<p>このように 私は考えます とてもすてきなこと 世界にほこる和紙 生活の中で使ってみませんか</p>	<p>よりよろこんでもらいたいという思い</p>	<p>およそ千年前 受け取る相手や気持ちに合わせて</p>	<p>もう一つ 和紙の風合い 気持ちを表す方法 選んで使ってきた</p>	<p>千三百年前の和紙 一万点以上 正倉院</p>	<p>長もち 作り方のちがいがい おだやかなかんきょう</p>	<p>せんいの長さのちがいがい とても長いせんい</p>	<p>まず 二つのとくちょう 何によって生まれるのでしょうか</p>	<p>ほこりに思っています より多くの人に和紙のよさを知ってもらい、使ってほしい なぜなら</p>	<p>ユネスコの無形文化遺産 すばらしい技術</p>	<p>中心となる語</p>